



自学＝主体的な動きへ ～運動会実行委員の姿から～

小中学校の運動会が5月24日に実施されるが、本番までとうとう1か月を切った。GWの日数も考えると、丸々一か月ある訳ではなく、練習も考慮すると練習が始まる少なくとも2週間前には全ての計画が完成していなくてはならない計算になる。とすると、計画はせめて連休明けの5月9日までということになる。

15日(火)の共育タイムで「はじめの会」を行い、その後実行委員会を立ち上げ、各委員が今迄にない、自分たちが1から創る運動会を目指して頑張っていることと思う。

そうした中、子どもたちが休み時間に主体的に集まり、計画を立てているという話をY指導主事から聞いた。そしてその様子も写真に収めてくれたという。流石、指導主事である！そうした細かな動きを察知し、子どもたちの成長や足取りを追っていくと自ずとこの行事に賭けた子どもたちの思いが見えてくる。

運動会のスローガンは「一致団結」と子どもたちが決めたので、そのスローガンに沿って種目を決めだす話し合いなのだが、その際に運動会で大切にしたいこととして3点を子どもたちからだされ、それを基準に種目を決めていく流れのようだ。

①「一致団結」に関わる競技か。

②まわりの人(地域・保護者・先生方)や児童・生徒が楽しめ、栄小として最後の運動会にふさわしいか。

③実現性があるか。

こうした3点に合う、合わないが子どものジャッジポイントであることも、それを決めてだして基準を作ってから種目決めを行っている点も大変素晴らしいと感じる。

こうした活動が休み時間中に行なわれ、「休み時間が取れない」と嘆く姿もあるようだが、運動会が終わればその嘆きもきっと今までにない満足感や充実感に変わり、自分たちの成長や、やれるという自己有用感がかなり高まるのではないかと期待したい。

写真の映像からもわかるように先生方2名は子どもの後ろに構え、話し合いの流れをじっと見ている。そして6年生は座席が少ないため、着席せずに低学年を席に座らせ、自分たちは立ったまま話し合い活動を行っている点も大変印象的だ。こうしてみると実行委員会で休み時間を使い話し合い活動を行なっているという事だけでも子どもたちのやる気や主体性を感じるが、それ以上に既にこの一か月で育まれてきている内容は大きいと感じる。

子どもたちは確かに決めることや話し合うことが多く行事のたびに大変なことは多いだろうが、それが今後の学校改革の種まきにもなっている。

休み時間で最後は時間が無くなったようだが、6年生がまず6年で話し合い、そのあと実行委員会に提案するがそれでも良いか、と確認をとり参加した全員が了承した後に解散になったという点でも大変民主的な進め方だと感じた。運動会が益々楽しみになってきた。

